

# 「長岡市の児童生徒・保護者・教員意識調査」要約版

## 1 児童生徒

### (1) 学校での様子や授業について

小学生、中学生ともにほとんどの子どもが、学校に行くことを「とても楽しい」「少しは楽しい」と感じている。しかし、10%前後ではあるが、「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」という児童生徒がいる。楽しくない理由の1位は「疲れていて、朝起きるのがつらいから」である。

また、授業で「わかる」「できる」と感じている割合は、小学生では約90%と高いが、中学生では、約80%と10ポイント減少する。

- ① 小学生の93.1%、中学生の88.5%が学校へ行くことを「とても楽しい」「少しは楽しい」と感じている。「とても楽しい」「少しは楽しい」理由の一番は小学生、中学生ともに「友だちと遊んだり、おしゃべりをするのが楽しいから」で、90%を超える。
- ② 学校へ行くことを「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」と回答した子どもは、小学生は7.0%、中学生は11.5%である。「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」という理由の一番は、小学校、中学校ともに「疲れていて、朝起きるのがつらいから」である。
- ③ 授業で「わかる」「できる」と「とても感じている」「少しは感じている」割合は、小学生89.4%、中学生79.4%である。
- ④ 中学3年生では、24.5%（約4人に一人）が、授業で「わかる」「できる」と「あまり感じていない」「まったく感じていない」と回答している。

### (2) 家庭生活の状況について

小学6年生の約3割が11時過ぎ、中学3年生の約4割が12時あるいはそれよりも遅く寝ると答えており、子どもの生活が夜型になってきている傾向が伺える。

朝食を「いつも食べる」子どもは、小学生、中学生ともに80%を超えている。

朝食を毎日食べる子ども、あまり夜更かしをしない子どもほど、「学校がとても楽しい」「授業で「わかる」「できる」と感じている」「家庭学習は宿題がなくともほとんど毎日する」などの割合が高い。

また、家庭で自分に決められた手伝い（仕事）が「ある」という小学生は約5割、中学生は約3割程度であり、家庭内で決められた役割や仕事がない子どもが多い。

- ① 小学6年生の28.3%、中学3年生の87.6%が11時より遅い時間に就寝している。中学3年生では、39.4%が「12時ころ（それよりも遅い）」と答えている。
- ② 就寝時間が遅くなるほど、「学校があまり楽しくない」「授業で「わかる」「できる」と感じていない」「朝食を食べない日が多い」「宿題があっても家庭学習をしないことが多い」「平日にテレビ（DVD）等を3時間以上見る」という割合が増加する。
- ③ 朝食を「いつも食べる」という子どもの割合は、小学生85.3%、中学生81.7%である。
- ④ 朝食を「いつも食べる」という子どもは、「たまに食べないことがある」「半々くらい」「ほとんど食べない」という子どもと比較すると、「学校に行くのがとても楽しい」「授業で「わかる」「できる」と感じていない」「朝起きたときや夜寝る前に家の人に必ずあいさつをする」「宿題がなくても家庭学習をほとんど毎日する」などの割合が高い。
- ⑤ 家の人の手伝いを「とてもよくする」と答えた割合は、小学生21.8%、中学生12.5%である。
- ⑥ 家の手伝いを「あまりしない」「ほとんどしない」は、小学生23.3%、中学生39.2%であり、学年が上がるほど家の手伝いをしなくなる傾向がある。
- ⑦ 自分が必ずする手伝い（決められた仕事）が「ある」という小学生は、47.8%、中学生は、33.3%である。「長岡っ子の家庭生活」（H15長岡市生徒指導研究会）との比較では、小中学生ともに約7ポイント減少している。

### （3）家庭学習等の状況について

毎日の家庭学習習慣が定着している小学生は約3割、中学生は2割弱である。特に中学生は、「宿題があってもしないことが多い」という数値が上がり、3割程度の中学生は、家庭学習をほとんど行っていないという実態にある。

通塾については、小学生の約25%、中学生の約50%が学習塾に通っている。中学3年生は、約60%が学習塾に通っている。

- ① 「宿題がなくてもほとんど毎日する」という小学生は32.7%、中学生は17.7%である。学年が上がるほど、数値は減少する。
- ② 「宿題があってもしないことが多い」という割合は、小学生6.6%、中学生14.3%である。
- ③ 中学2、3年生は、「宿題があるときだけやる」「宿題があってもしないことが多い」を合計すると、約50%となる。
- ④ 家庭学習時間については、中学生で、「ほとんどしない」「30分より少ない」が30%を超えることから、3人に一人は自主的な家庭学習の習慣が定着していないと考えられる。
- ⑤ 小学生の約25%、中学生の約50%が学習塾に通っている。小学生は、学

年別で通塾の割合に大きな差はない。中学生は、1年生約35%、2年生約50%、3年生約60%と学年が上がると増加する。

- ⑥ 中学2，3年生では、週に2回という割合が約25%と最も多く、4人に一人は週2日学習塾に通っている。中学3年生になると、週3日という割合も増加し、13.8%となる。

#### (4) テレビやビデオ(DVD)の視聴時間やテレビゲーム等の時間について

平日にテレビ等を3時間以上見る中学生の割合は約25%である。また、テレビ等の視聴時間が長い子どもは、テレビゲーム等を2時間以上やる割合も高い。

平日のテレビ等の視聴時間が長いほど、就寝時間の遅い割合が増加する。

- ① 中学生の約25%(4人に一人)は、平日にテレビ等を3時間以上見ている。
- ② 小学生の平日テレビ等を3時間以上見る割合は、4年生は14.3%であるが、6年生は25.5%となり、中学生とほぼ同じ割合となる。
- ③ 平日のテレビゲーム(携帯用ゲームやパソコンのゲームを含む)の時間の中で、「ほとんどしない(持っていない)」割合は、小学生19.7%、中学生32.6%である。
- ④ 平日にテレビゲーム等を2時間以上やる子どもは、小学生10.7%、中学生13.8%であるが、テレビ等の視聴時間が長い子どもほど、テレビゲーム等を長くやる割合が高い傾向にある。
- ⑤ 平日のテレビ等を3時間以上見る割合は、平日10時に就寝している小学生は、16.7%であるが、就寝時間が11時になると35.4%、12時(それよりも遅い)になると51.0%と増加する。この傾向は、中学生でも同様である。
- ⑥ 1週間の読書時間(学校の朝読書や雑誌、マンガの時間を入れない)では、「ほとんど読まない」が小学生29.2%、中学生43.8%である。

#### (5) 持ち物について

ほとんどの子どもが、自分(兄弟姉妹と一緒に含む)の部屋を持っている。また、自分の部屋にテレビがある子どもは、小学生で約3割、中学生では約4割である。携帯電話については、中学生になると所持率が上がり、中学3年生では4割弱となる。

テレビや携帯電話については、教員、保護者ともに必要性を感じていないという数値が高いが、実際の状況とはずれがある。

- ① 自分の部屋(兄弟姉妹と一緒に含む)を持っている割合は、小学生86.4%、中学生94.6%であり、ほとんどの子どもが自分の部屋(兄弟姉妹と一緒に含む)を持っているといえる。
- ② 自分の部屋(兄弟姉妹と一緒に含む)にテレビがある子どもの割合は、小学生31.6%、中学生39.8%である。

- ③ 自分専用の携帯電話を持っている割合は、小学生6.8%、中学生24.9%である。学年が上がるにつれて割合も高くなり、中学3年生は36.7%である。
- ④ 子どもの部屋にテレビ(ビデオ)が必要かどうかについて、「必要ないと思う」「あまり必要でないと思う」という保護者は82.6%、教員は95.7%であるが、子どもの実際の状況とはずれがある。
- ⑤ 子ども(小中学生)に携帯電話が必要かどうかについて、「必要ないと思う」「あまり必要ないと思う」という保護者は、77.2%、教員は、91.6%であり、特に教員は子どもの携帯電話の必要性を感じていない。

#### (6) 町内(地域)とのかかわりについて

町内のお祭りや運動会など地域の行事への参加率は、小学生では高いが、中学生になると減少する。また、町内や地域の行事への参加が「かなりある」という子どもは、近所の大人とのあいさつを交わすことについて「かなりある」という割合が高く、町内や地域が「とても好き」という割合も高い。

- ① 町内のお祭りや運動会など地域の行事に参加したことが「かなりある」割合は、小学生66.7%、中学生40.9%である。
- ② 町内や地域の行事への参加が「かなりある」子どもほど、道路で近所の大人に会った時にあいさつを交わす割合や町内(地域)が「とても好き」という割合が高い。
- ③ 長岡が「とても好き」「わりと好き」という割合は、小学生80.0%、中学生65.3%である。「好きではない」「あまり好きではない」は、小中学生ともに、10%未満である。

#### (7) 将来の夢について

将来の夢がありますか。(どんなことでもいいです。)に、「ある」と答えた割合は、小学生88.4%、中学生79.8%である。中学生は、学年が上がるほど、「夢がある」という割合が減少する。

## 2 保護者・教員

### (1) 学校行事（授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表会）への参加状況について

学校行事に「積極的に参加している」「ある程度参加している」という保護者は、小学校94.5%、中学校77.3%であるが、中学校になると「参加しない」という保護者の割合が増える。学校行事に「積極的に参加している」保護者は、自分の子どものしつけをきちんとしているという割合が高く、自分の学区の家庭・地域・学校の連携が十分行われていると考える割合も高い。

- ① 「積極的に参加している」という割合は、小学校保護者34.9%、中学校保護者19.2%である。
- ② 小学校保護者は、「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」の割合は5%程度であるが、中学校保護者は、22.8%と増加する。

### (2) 教員から見た子どもの実態について

人間関係やコミュニケーション能力の低下している子どもが増えている、ちょっとくらい嫌なことや苦しいことを我慢できない子どもが増えている、と感じている教員の割合は、93%以上である。また、しつけや基本的な生活習慣が定着していない、善悪の判断やルールを守ることができない、学力の二極化傾向などについても多くの教員がその傾向を感じている。

- ① 「人間関係やコミュニケーション能力の低下している子どもが増えている」と感じている教員の割合は93.0%、「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことをがまんできない子どもが増えている」と感じている教員の割合は、94.6%と非常に高い。
- ② 「しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えている」に、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は、89.9%である。
- ③ 「社会の基本的なルールを守ったり、善悪の判断をする力が低下している」に、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は、85.3%である。
- ④ 学力の二極化傾向を感じている教員は、81.5%である。
- ⑤ 「学習意欲の低下している子どもが増えている」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は、全体では64.4%である。小中学校別では、小学校教員は、59.2%、中学校教員は、73.5%であり、中学校教員の方がこの傾向を強く感じている。

### (3) 家庭での子どもへのしつけについて

ほとんどの保護者が、自分の子どもにある程度きちんとしつけをしていると思っている。しかし、多くの教員は、しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えていると感じており、家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか、という質問に「そう思う」「ある程度そう思う」を回答した教員は、35%程度であることから、保護者と教員の意識にはかなりのずれがあるといえる。

- ① 子どもに「きちんとしつけをしている」「どちらかというところ思う」という保護者の割合は、86.6%である。
- ② 「「おはよう」「いただきます」「ありがとう」などのあいさつができるようにさせる」「人に迷惑をかけない、またかけたときはきちんとあやまることを教える」「時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教える」「毎日朝食を食べさせる」などの項目については、「かなり心がけている」「ある程度心がけている」という保護者は95%を超えている。
- ③ 「子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活や生き方を心がけている」ということに「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」と回答した保護者は、19.1%である。
- ④ しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えていると感じている教員の割合は、89.9%である。
- ⑤ 「家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか」という質問に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は、64.9%であるが、保護者の86.6%がしつけをきちんとしている方だと回答している。

### (4) 家庭の教育力について

保護者、教員ともに家庭の教育力の低下傾向を感じている。特に、教員は91.2%が家庭の教育力が「かなり低下している」「やや低下している」と回答している。また、その理由や原因については、保護者と教員の捉えで若干の違いがある。

- ① 家庭の教育力が低下傾向にあると感じている保護者の割合は、76.6%であり、多くの保護者が家庭の教育力の低下傾向を感じているといえる。
- ② 家庭の教育力が低下傾向にあると感じている教員の割合は、91.2%であり、ほとんどの教員が家庭の教育力の低下傾向を感じているといえる。
- ③ 家庭の教育力に「変化はない」という保護者の割合は、20.3%、教員の割合は、8.1%である。
- ④ 家庭の教育力が低下した理由や原因として保護者があげた上位3項目は、
  - ・「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」
  - ・「過保護な親や過干渉な親が増えた」
  - ・「しつけに無関心な親が増えた」である。

- ⑤ 教員が、家庭の教育力が低下した理由や原因としてあげた上位3項目は、
  - ・「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」
  - ・「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」
  - ・「過保護な親や過干渉な親が増えた」である。
- ⑥ 子どもの基本的な生活習慣（起床・睡眠・食事など）の定着と、学習意欲や成績が「かなり関係がある」「ある程度関係がある」と思っている割合は、保護者 97.9%、教員 99.2%である。

#### (5) 家庭・地域・学校の連携について

ほとんどの保護者が、子どもの教育のために、家庭・地域・学校が連携・協力することの必要性を感じている。しかし、実際に自分の学校区で連携・協力が十分にできているかという点で保護者、教員ともに約20%が、まだ十分行われていないと思っている。また、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもの教育を進める上で重要であると考えられる取組については、保護者、教員ともに同じ認識である。

- ① 家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思うかという質問に、「とても必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と考えている保護者は、97.6%である。
- ② 実際に自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われているかについて「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した保護者の割合は、80.0%である。20%の保護者が連携・協力がまだ十分ではないと感じている。
- ③ 自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思うかという問いに、「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した教員の割合は81.4%であり、保護者の数値とほぼ同じである。
- ④ 保護者が、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもの教育を進める上で重要であると考えられる取組の上位3項目は、
  - ・「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらう」
  - ・「教員と保護者が話し合う機会を多くする」
  - ・「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」である。
- ⑤ 教員が、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進めるうえで重要であると考えられる取組の上位の項目は、
  - ・「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらう」
  - ・「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」
  - ・「教員と保護者が話し合う機会を多くする」である。